

血管内視鏡による新生内膜の Grade と IVUS 所見と抗血小板薬との関連について

【はじめに】当院では PCI 後のフォローアップ CAG の際に、抗血小板薬減量を目的に血管内視鏡による新生内膜の観察を行っている。

【目的】STENT 留置後の IVUS 所見により、新生内膜の状態に影響を及ぼすのか検証をした。

【対象及び方法】2017. 01. 01～2017. 12. 31 に 12 ヶ月フォローアップ CAG で血管内視鏡による観察を施行した 125 件(男性 88 名、女性 37 名、平均年齢 71.4 ± 9.2 歳、うち内服予後の追えた患者 57 名)を対象に、PCI 終了直前の IVUS 所見と内服中の抗血小板薬、STENT 径や圧着不良、Post Balloon、Protrusion 等の有無を比較検証した。

【結果】Low Grade 群は 73 件(58.4%)であった。その中で圧着不良は 10 件(7.3%)、Post Balloon は 12 件(16.4%)、Protrusion は 2 件(7.3%)であった。High Grade 群は 52 件(41.6%)であった。その中で圧着不良は 6 件(11.5%)、Post Balloon は 12 件(23.0%)Protrusion は 1 件(1.9%)であった。Grade と STENT 径の相関係数は認められなかった。内服薬の平均は Low Grade 群で 2.0 種類、High Grade 群で 1.6 種類であった。

【考察】Low Grade と High Grade に圧着不良や Post Balloon 等での有意差はなく、また留置後の STENT 径との相関も見られなかった。血管内視鏡の結果から High Grade 群で内服薬が減量された件数が多いことから、血管内視鏡が内服薬の調整に有用であると思われる。

【結語】今回の検証では圧着不良や Protrusion 等での影響は確認されなかった。圧着不良や Protrusion が見られた症例数が少なかったため、更に STENT の種類による影響も調査し検証する必要がある。。